

児童朝会 校長の話 3月7日

毎年この時期になるとお話することがあります。12年前の3月11日、東北地方にとっても大きな地震が発生しました。町が全部壊れてしまう程の大きな地震です。東京でも震度5で、私はその頃千束小学校に勤めていましたが、校舎が大きく揺れて、廊下や階段はてすりを使わないと歩けないほどの揺れでした。この大地震で亡くなった方や未だに行方不明の方は合わせると2万人近くです。今日はその当時宮城県において被害に遭った小学校4年生の手紙を読みます。東京の小学生宛のメッセージになっています。手紙の中に「津波」



が出てきます。地面が大きく揺れると大きな波が発生します。その大きな波のことを津波と

いいますが東日本大震災では高さ20m以上の津波が発生しました。浅草小学校の4階位の高さです。その様子を写した写真があります。車が飲み込まれています。町全体が津波によって破壊されている様子も写真に写っています。また、手紙の中に「がれき、震災ゴミ」という言葉が出てきます。町が破壊されてしまって、たくさんのがれきやゴミが出て、このように道の両側に高く積まれました。それでは、手紙を読みます。



## あの日・・・

被災地から、東京都の小学生にメッセージをいただきました。

家に帰って弟に本を読んでもらっているときに「津波だああ」という大声がして「おどろおどろ」というせびみまを大きな音がしました。そのため前二階に上がったという祖父の声がして、私は弟の手だけをしっかりと握り、今まで出したことのない速さで二階に駆け上がりました。津波で家がとんとん揺られていく様子がまじから見えるので、家族を必死に止まらせて、よおせよと泣きながら、私は奇跡的に家の前で止まり、水も二階までよがらずにうきうきと止まってくれました。がれきや木村と一緒に車も流されてきて、その車の上に人がいました。そのうちに祖父がどこからかロープを出してきてロープを使ってその人を救出しました。その人に服をわたすと「ありがとうございます。ありがとうございます。何でも言っていました。私は、助けて良かった。努力が報われてたかな」と思いました。その後、私は両親とあわせて、仙台の親せきの家にひきこもっていました。

学校が始まってからは、水道の水が飲めないことが不便でした。水道タンクが津波で壊れていたので、通学路もがれきや震災でみなとてまがたし、工事などがあつたので、あつたがたでも、水は校庭と体育館が使えなかったです。水も、水もなくなつてしまふので、給食の面でも、毎日パンと牛乳とカップのデザートだけで温かいごはんをおかずが食べられませんでした。

その後も不便な学校生活の中、私は全国から支援をいただいたことにも感謝しています。東京の枝川からは、運動会用品をたくさんいただきました。今振り返ると、あの支援のおかげで運動会は成功したかなと思います。とてもありがたく思っています。外国からもはげまの手紙などをいただいた。本当に支援をくださった方は、思いやりのある優しい人達かなと思います。そして私は支援をもらう度に、絶対いつかの恩返しをしたいなと思っています。

最後に、私はこの大きな災害を必ずしも津波だけではない、海から逃げることを伝えていきたいです。多くの犠牲者を出したくないからと、自分でこの大震災を思い出したくないけど、時々思い出して、絶対いつかの出来事を忘れないでほしいです。そして、支援をしてくださった方に恩返しをしたいと思っています。どこかで災害があったら、私の出来事、すぐに支援します。

宮城県 東松島市立 大曲小学校 4年 杉浦 遥

12年経っているので、このメッセージを書いた杉浦遙さんは22才で、大人になっていますね。震災の大変な状況とその後、多くの方々の援助で助け合い、力を合わせて復興していったのが分かりますね。いつ災害に見舞われるかは分かりません。その時に助けをいただく側になることもあるでしょうし、助ける側になることもあるでしょう。自分に出来ることを行って助け合っていくことが大切ですね。

毎年この震災を忘れないように、そして亡くなった方を追悼するために3月11日、発生した2時46分にみんなで黙祷を捧げていますね。今年は土曜日ですのでみんな一緒には出来ませんが、それぞれの場所でやってください。